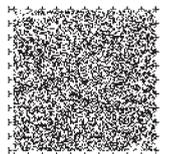


FUKUOKA PREFECTURAL
MUSEUM OF ART

新
福岡県立
美術館
基本計画

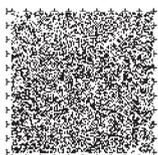
概要版



新福岡県立美術館 基本計画

現在、福岡市天神地区にある福岡県立美術館は、長年にわたり、芸術文化との触れ合いの場として多くの方々に親しまれてきました。しかし、建設から57年が経ち、建物の広さや機能に限界があることなどから、県では、県民の大切な文化資産である美術品や美術活動を継承し発展させるため、大濠公園南側（福岡市中央区）に新たな県立美術館を建設することとしました。

そこで、福岡県では「新福岡県立美術館基本計画策定委員会」のご意見をもとに、新県立美術館の建設や運営において必要となる基本的な考え方や取組みをまとめた「新福岡県立美術館基本計画」を令和3年11月に策定いたしました。



目指す姿とコンセプト

福岡県の歴史的背景や開放的で明るく進取の気性に富む県民性、本県の芸術文化における県立美術館の役割、九州の芸術文化発展に対する貢献、県民や芸術家を主役とした美術館のあり方、本県を代表する都市公園の魅力活用などの視点に立って、以下の4つを掲げます。

芸術の可能性を拓き、 挑戦する美術館

- 国内外の芸術家が交流し、文化芸術活動を展開する拠点となる。
- 最先端の技術を活用するなど新しい美術表現が行われ、新たな文化芸術の潮流を生み出す拠点となる。
- 若手芸術家の創作・発表などの文化芸術活動を支援し、次代を担う芸術家を育む拠点となる。

九州・福岡県の文化芸術の 発展に貢献する美術館

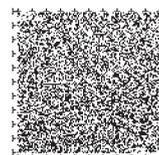
- 福岡県ゆかりの作家の作品や関連資料など、本県の美術活動の過去・現在・未来を発信する拠点となる。
- 県立美術館が蓄積してきた美術資産を継承するとともに、一層のコレクションの充実を図る。
- 九州の美術館と連携し、九州の文化芸術の発展に資する取組みを推進する。

県民が親しみ、 誇りを育む美術館

- 県民が美術に親しみ、感性を磨き、豊かな心を育むとともに、自らの才能を発見し、伸ばす拠点となる。
- 豊かな文化芸術や美術資産に触れ、学ぶことができ、郷土への誇りと愛着を育む拠点となる。
- 多様な人々が美術館活動に参加し、文化芸術を通じたつながりや共感が生まれる拠点となる。
- 地域や学校、県内美術館等と連携し、文化芸術活動の効果を県内各地域にもたらす地域活性化の拠点となる。

公園と一体となった美術館

- 大濠公園と親和し、広く周辺地域にも活動の場を広げ、広大なアート空間を創出する。
- 能楽堂や日本庭園、福岡市美術館とも連携し、多様な美術表現の場となることにより、新たな文化芸術活動を誘発する。
- エリアのランドマークとなり、国内外の多くの人々の交流を促進する。



機能と役割

「目指す姿とコンセプト」を実現するため、SDGs（持続可能な開発目標）や、ダイバーシティ（多様性）、インクルージョン（包摂）、さらに先端技術、新しい生活様式など、文化芸術を取り巻く社会情勢を踏まえ、これに的確に対応できるよう、「機能と役割」を整理します。

収集保存

- 長い歴史の中で生み出されてきた福岡県の美術を、永く後世に伝えていく。
- 体系的で魅力的に福岡県の美術を紹介するため、九州や世界の中で本県の美術を捉える視点でコレクションを拡充する。
- 最新の保存科学の知見を取り込みながら作品劣化の進行を防止するとともに、作品収蔵において将来にわたって安定的に保存できる設備を整える。

展示公開

- 重要文化財や大型作品の展示、デジタル技術を活用した展示等が可能な環境を整備する。
- コレクション展示では、収蔵品を分かりやすく、魅力的に紹介する。
- 特別展示では、国内外の名作が堪能できる展覧会、新しい美術表現を紹介する展覧会、福岡県や九州の美術を紹介する展覧会、親子で楽しむ展覧会など多彩な展覧会を開催する。
- 県民の作品発表のための県民ギャラリーを設け、福岡県美術展覧会（県展）の充実を図るとともに、若手芸術家に対し発表の機会を提供する。
- あらゆる人が作品を楽しむことができるよう、多言語表記や機器、アプリの導入など鑑賞のための工夫を行う。
- 日本庭園や能楽堂とも連携して日本文化の発信を行う。

教育普及連携交流

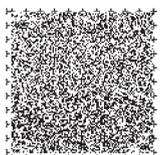
- 県民が主体的に参加し、文化芸術の社会包摂機能を活かしながら、アートを介したコミュニティ活動の拠点となることを目指す。
- 子どもから高齢者まで、芸術を介した新たな視点や価値観との出会いや、学びや体験の場となることを目指す。
- 教育分野や福祉分野と連携し、社会の共有財産としての役割を果たす。
- 県内各地に美術館の活動を拡げ、地域の価値や記憶を人々とともに育てていくことで「シビックプライド」を育む。
- 他の美術館や異分野との連携・交流を進めて、文化芸術に新たな価値を創造する活動を行う。

情報発信

- オンライン上にデジタルミュージアムを立ち上げ、展覧会案内や収蔵品の情報だけでなく、過去の展覧会の記録映像やバーチャル展覧会など多様なコンテンツを提供する。
- 戦略的な広報計画を立て、ネットマーケティングを活用した情報発信に取り組む。
- 来館者が美術館での楽しみや体験をSNS等で発信できるように環境を整える。
- 美術図書や美術関連資料についてはオンライン検索システムを構築するとともに、図書や資料を閲覧できる設備を整える。

美術館の快適な利用

- バリアフリーを徹底し、利用者目線に立って誰もがストレスなく、快適に美術館を利用できるよう、ユニバーサルデザインの考え方にに基づき施設整備を行う。
- カフェ・レストラン、ミュージアムショップなど美術館の魅力を向上させる施設を整備する。
- 密にならず、ゆったりとして、来館者が安心して快適に美術鑑賞できる環境を整える。



調査研究

- 福岡県や九州の作家、作品に関して重点的に研究する。
- 先端技術を取り入れ、大学、企業、他の博物館等とも連携して取り組む。
- 研究成果を展覧会の企画立案、美術館の運営などに活用、発信する。
- 調査研究活動を継続的に実施できる環境を整備する。